

# リトミック演習課題の検討と改善 —新カリキュラム「幼児と表現」を踏まえて—

小倉 隆一郎\*

## Examination and Improvement of a Eurhythmic Exercise: In Light of “Infants and Expression” in the New Curriculum

Ryuichiro OGURA

**要旨** 筆者は、領域「表現」を内容とする「保育内容B」の授業を担当している。2020年度からは教育学部の改組に伴う新カリキュラム「幼児と表現」を担う予定である。「幼児と表現」および新課程の教育目標を考慮しながら、現在、学生に提示しているリトミック演習課題を再検討し、改善することが、本論の主旨である。再検討の資料としては、受講生へのインタビューを軸に、授業直後に実施した質問紙とリトミックのセッションを録画したビデオを使用した。その結果、リトミック演習課題の文言や指示方法およびリトミックのセッションについて検討・改善するための貴重なデータが得られた。これらのデータはリトミック演習課題の次の改善に利するとともに、領域「表現」の指導法を考察する素材として活用したい。

**キーワード**：幼児と表現 リトミック 領域「表現」 授業改善 振り返り

### 1. 研究課題

筆者は、2016年度より領域「表現」を内容とする「保育内容B」の授業を担当している。2020年度からは領域に関する専門的事項の新カリキュラムとして「幼児と表現」を担う予定である。また、本学では同年度より教育学部の改組を実施し、現在の2コースから4つの専修を含む発達教育課程が発足する。この新カリキュラム「幼児と表現」および新課程の教育目標を考慮しながら、現在、学生に提示しているリトミック演習課題を再検討し、改善することが、本論の研究課題である。

研究課題の進め方について、2018年度の紀要52号では、授業直後に実施した質問紙による調査と

リトミックのセッションを録画したビデオを基に検討・評価した（小倉 2018）。本論では、昨年の質問紙とビデオに加えて、受講生へのインタビューを行うことで、さらに実際に即した細かいデータが収集できることを期待している。

### 2. 新カリキュラム「幼児と表現」

本学の教育学部は、2020年度新入生より、改組を行い、現在の学校教育課程は、国語・社会・数学・理科・音楽・美術・体育・家庭・英語の9専修に変更される。また、筆者が所属する心理教育課程は、発達教育課程に名称が変わり、特別支援教育・初等連携教育・児童心理教育・幼児心理教育の4専修となる。この学部改組に並行して、発達教育課程では文部科学省に、新たに教員免許取得の課程認定を申請した。

\* おぐら りゅういちろう 文教大学教育学部心理教育課程

幼稚園教諭免許の取得に必要な5領域にかかわる授業について、筆者は、従来、「保育内容B（表現）」を担当してきた。2020年度からスタートする新カリキュラムでは「幼児と表現」の授業を担う予定である。

文科省は、「領域に関する専門的事項」のモデルカリキュラムとして「幼児と表現（1単位）」の目標を以下表1のように提示している（文部科学省1）。

表1 「幼児と表現（1単位）」の目標

全体目標
当該科目では、領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。
(1) 幼児の感性と表現
一般目標： 幼児の表現の姿やその発達を理解する。
到達目標： 1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。 2) 表現を生成する過程について理解している。 3) 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。
(2) 様々な表現における基礎的な内容
一般目標： 身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
到達目標： 1) 様々な表現を感じる・見る・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2) 身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。 3) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 5) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。

文科省が提示するモデルカリキュラムの目標と筆者が執筆した「幼児と表現A（音楽）」のシラバス内容との整合点を考察する（表2）。

表2 シラバスとモデルカリキュラム（目標）の対応

「幼児と表現A（音楽）」シラバスの内容	文科省の提示目標
●授業の到達目標及びテーマ	
幼児の豊かな感性と表現力を育むことをねらいとし、「表現」の領域における保育実践の方法を身につける。	(1) - 3) (2) - 1) (2) - 4)
また、「表現」領域のねらい・内容および全体構成を理解する。具体的には、手遊びや絵本・紙芝居を通して、子どもの興味を喚起する表現力を獲得する。	(1) - 1) (1) - 2) (2) - 2) (2) - 4)
音楽関連では、主としてペープサート、パネルシアター、リトミックの基本の動きを習得し、実践する。	(2) - 2) (2) - 4) (2) - 5)
●授業の概要	
幼稚園教育要領の内容五領域の内、「表現」について、具体的な指導場面を想定した実践演習を中心に学ぶ。	(1) - 3) (2) - 1) (2) - 4)
歌と音楽を伴った手遊びやペープサート、パネルシアター、リトミックなどの演習を通して、豊かな表現力を養う。	(1) - 3) (2) - 1) (2) - 2)
手遊びは、毎回の授業の始めにロールプレイングによる演習を実施し、ペープサート・パネルシアターについて3回、リトミックに3回の演習を行う。	(1) - 3) (2) - 2) (2) - 3) (2) - 4) (2) - 5)
授業形態は、講義の他、模擬授業と討論、および講評と指導で構成する。	全体目標

シラバスの内容と、文科省が提示するモデルカリキュラムの目標について、表2から、それらの整合性を考察した結果、「(1) 幼児の感性と表現」に対応する内容が少ないことが分かる。モデルカリキュラムの目標を概観すると、「(1) 幼児の感性と表現」は領域「表現」の理論を学び理解すること、「(2) 様々な表現における基礎的な内容」は実践を通して表現の知識技能を習得することが主幹である。今回、「幼児と表現A（音楽）」のシラバス作成にあたっては、(2)の内容を中心とした。その理由は以下の4点である。

①新カリキュラムでは領域「表現」に関する授業は『保育内容「表現」の指導法』と「幼児と表

現」であるが、前者は図画工作担当の教員が担当するため、音楽表現としての授業は後者のみである

- ②領域「表現」についての理論は「保育内容総論」でも取り扱う内容である
- ③音楽表現で扱う実践的な手遊び・ペープサート・パネルシアター・リトミック等は、実習や現場で即時に必要とされる内容である
- ④「幼児と表現A（音楽）」は半期1単位で、8回の授業回数の中で内容を構成する必要がある  
また、幼稚園教育要領（文部科学省 2017）および保育所保育指針（厚生労働省 2017）には、「ねらい及び内容」に「～音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。」と記され、領域「表現」の指導内容に実践的事項が必要であることを示唆している。

「幼児と表現A（音楽）」では（2）の実践的な内容を中心に授業を構成するが、（1）における表現の理論や学習指導要領における位置付けについては、適宜含めたい。一例として、「幼児と表現A（音楽）」の初回オリエンテーションで、学習指導要領と音楽表現の理論についての資料を基に、説明することを予定している。

### 3. リトミック演習課題の作成と改善

学生に提示するリトミック演習課題は、筆者が「保育内容B」の授業を初めて担当した2014年度に作成し、2017年度までの4年間は細部の不具合部分を見直しながら使用した。2018年度には内容を大きく改訂するとともに、配布方法も変更した。配布方法については、従来、各班（1～9班）の課題は該当班のみに渡していたが、2018年度からはすべての課題をまとめた冊子として全員に配布している。2018年度に使用したリトミック演習課題およびこれまでの改善経緯については、文教大学教育学部紀要52号に詳述した（小倉2018）。ここでは、リトミック演習課題に使用した楽曲について、表3に示す。同表の「課題1・

課題2・～」は、それぞれ「1班・2班～」に提供する課題である。課題2のセッション1はボディーパーカッション用のリズム楽譜であるが、それ以外は歌を使用している。

表3 リトミック演習課題に使用した楽曲

課題	セッション1	セッション2
1	おちたおちた	さよならのうた あんたがたどこさ
2	リズム課題 (ボディーパーカッション)	手のひらを太陽に
3	ごんべさんのあかちゃん	こいぬのビンゴ
4	サンタクロース	ロンドン橋
5	音のエレベーター	カエルの合唱
6	タンタン・タンブリン	手をたたきましょう
7	お茶をのみにきてください	むすんでひらいて
8	アビニョンのはしのう えで	ミッキーマウスマーチ
9	かえるの合唱（短調）	一週間

選曲の意図は、以下の2点である。

- ①実習に即応できること
- ②幼小連携を踏まえ、わらべうた等日本の遊び歌を含めること

「幼児と表現A（音楽）」は2年次に開講予定であるが、3年次の春に実施される幼稚園教育実習に向けて、保育現場で使用頻度が高く使い易い楽曲を選択する必要がある。秋山（2012）は、今、都内の幼稚園・保育所でどのような歌が歌われているかについて、幼稚園・保育所計780件のアンケート結果から、園児が自発的に歌う歌は、約半数が「遊び歌」であると述べている。したがって、リトミック演習課題には現場でよく使用される「遊び歌」を含めた。一例をあげれば、「おちたおちた」「あんたがたどこさ」「こいぬのビンゴ」等である。

小学校の歌唱共通教材には「ひらいたひらいた」「うさぎ」等、わらべうたを含む日本の遊び

歌が設定されている。幼小連携を思慮する際、リトミック演習課題に日本の遊び歌を含めることは意義のあることと考える。この点に関し、室町(2017)は、「わらべうたが幼小接続の教材となりうるものであり、～中略～「あそび」を通して学びに接続することは、子どもが生涯にわたって音楽に親しみ、人生を豊かにする学びを得るうえでも重要であると考えている。」と述べている。また、幼小連携に関しては、幼稚園教育要領(文部科学省 2017)に「～幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し～」との記述があり、保育所保育指針(厚生労働省 2017)には「～保育所保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めること。」と記されている。そこで、リトミック演習課題には、幼小接続を踏まえ、日本の音階を用いた「おちたおちた」「あんたがたどこさ」「お茶をのみにきてください」の3曲を含めた。

2章の初めに述べたが、2020年度新入生から、心理教育課程は発達教育課程と名称が変わり、4つの専修で構成される。4専修の内、初等連携教育専修は、正に「幼小教育の接続のスペシャリストをめざす(文教大学 2019)」ことを主要な目的とするコースである。「幼児と表現A(音楽)」におけるリトミックのセッションが、初等連携教育専修のコンセプトを授業で具現する一助となれば幸いである。

#### 4. 本論で扱うリトミック演習課題と評価方法

3章で述べたように、リトミック演習課題は2014年度に作成して以来、毎年見直し・改訂を行ってきた。見直しの根拠として、これまでは授業後に実施する簡潔なアンケートを使用している。本論では、アンケートと合わせてインタビューを行い、見直しのデータとした。インタビューはリトミックのセッションを録画したビデオを視聴後、半構造化インタビューにより実施した。半構造化インタビューを用いた理由は、あらかじめ用意した質問項目から、一歩踏み込んだ内

容へ、自然な流れの中で、対象学生の考えを引き出したためである。また、受講生には授業終了直後に簡単なアンケートを実施した。したがってアンケートの項目に対する対象学生の回答は予測が可能であるが、さらに踏み込んだ内容に対しては予測不能である。L.リチャーズ(L.Richards他 2008)は、このような状況下でのインタビューには、質問紙を用いた半構造化インタビューが適していると述べている。

リトミック演習課題は、3章の表3で示した様に、課題1から課題9まで、それぞれ2つのセッションで構成した。2018年度の研究では、課題1および課題2について、アンケートと録画データの検討を通して見直しを行った(小倉 2018)。本論では、課題3から課題5までの演習課題について、アンケートへの回答を考慮したインタビューを行い、改善点を探る。

以下、課題3・4・5のリトミック演習課題を提示する。ただし、誌面の都合により、図と譜例は省く。

#### 【リトミック演習課題3】

##### (1) 課題3-1

「ごんべさんのあかちゃん」

ねらい：音のないビートを感じる

活動内容

- ①「ごんべさんのあかちゃん」の手遊びをする(ピアノ伴奏付き)
- ②四分音符のビートで手拍子を打ちながら歌う
- ③歌詞の中の「た」の部分は歌わず、口に手を当てる  
他のビートは手拍子
- ④次は「ご」と「た」を抜く
- ⑤「ご」と「あ」と「た」を抜く
- ⑥2つのグループに分け、一方は手遊び、もう一方は⑤をプレイする 交代する
- ⑦「ごんべさんのあかちゃんがかぜひいた」の部分の手遊びを、振りのみ(伴奏もなし)で行う

##### (2) 課題3-2

「こいぬのビンゴ」

ねらい：歌詞抜き遊びとボディー・パーカッションを楽しむ

活動内容

I 歌詞を抜いてクラップ

- ①「こいぬのビンゴ」の歌を練習する（ピアノ伴奏付き 必要に応じて白版に歌詞を書く）
- ②BINGOの大きなカード（画用紙大）を用意する
- ③Bは歌わずクラップ（手を叩く）カードは裏を見せる
- ④BIは歌わずクラップカードは裏を見せる
- ⑤BINは歌わずクラップカードは裏を見せる
- ⑥BINGは歌わずクラップカードは裏を見せる
- ⑦BINGOは歌わずクラップカードは裏を見せる
- ⑧適当にアルファベットを抜く B×N×Oなど

II BINGOボディー・パーカッション

BINGOのところでボディー・パーカッションの動作を入れる

- ①テンポを遅くして、BINGOのボディー・パーカッションを数回練習する
- ②少しずつスピードアップ
- ③円になり（二重円も可）、2小節は左回りに歩く、BINGOでボディー・パーカッション

[リトミック演習課題4]

(1) 課題4-1

暗い「サンタクロース」

ねらい：暗い「サンタクロース」で輪唱の響きを味わう 身体運動でリズム感を養う

活動内容

- ①短調の「サンタクロース」歌の練習をする（ピアノ左手はすべてDm [レファラ] でもOK）
- ②身体運動を加える  
4分音符=膝打ち 2分音符=頭に手をおく  
8分音符=スタンプ（足踏み）など
- ③輪唱で歌う（始めは歌のみ）②（③④）の入るタイミングはリーダーが指揮をして指示する  
2グループに分けて①→②、  
3グループに分けて①→②→③  
4グループに分けて①→②→③→④

④身体運動を加えて輪唱を歌う

⑤身体運動のみ（歌なし・ピアノ伴奏あり又はなし）で輪唱する

[サンタクロース 2部輪唱のピアノ伴奏（2人で弾いてもよい）]

(2) 課題4-2

「ロンドン橋」

ねらい：基礎的なリズムでゲームを楽しむ

活動内容

♪2分音符, ♩4分音符, ♪8分音符のカード（画用紙大）を用意しておく

- ①「ロンドン橋」歌の練習をする
- ②4分音符のリズムを手でたたきながら歌う
- ③8分音符のリズムを手でたたきながら歌う
- ④2分音符のリズムを手でたたきながら歌う
- ⑤円形（二重円も可）に並べ、回りながら
- ⑥4分音符でステップを踏み（歩き）ながら歌う
- ⑦8分音符でステップを踏み（歩き）ながら歌う
- ⑧2分音符でステップを踏み（歩き）ながら歌う
- ⑨リーダーは適宜、カードを皆に見えるようにかざし、出たリズムでステップを踏む。リズムが変わる時、子どもに注目させるために、カードをかざすとともに、別の先生が1回タンブリンを打ってもよい。
- ⑩円の回り、数か所に二人組のゲートをつくり、「さあどうしましょう」で橋を下す。橋の中につかまった人が、橋役の一人と交代する。  
リズム（⑥⑦⑧）は適宜変える。

[リトミック演習課題5]

(1) 課題5-1

「音のエレベーター」

ねらい：フラフープで音の高さを表す 音程を聞き分ける耳を育てる

活動内容

- ①各グループに1つずつフラフープを配布する
- ②「音のエレベーター」ドレミで歌う練習をする。先生役グループが一度範唱する。（初めての曲なので）
- ③グループ全員がフラフープにつかまる。3人ま

でなら両手，4人以上は片手で。

- ④ドレミファソをフラフープの高さで表す。  
床につけた状態=ド，膝の高さ=レ，腰の高さ=ミ，胸の高さ=ファ，顔の高さ=ソ，
- ⑤「音のエレベーター」を歌いながら，グループ全員でフラフープを音程に合わせて上下させる。テンポはゆっくり（♩=64位）
- ⑥「むすんでひらいて」歌詞をつけて歌う 次にドレミで歌う
- ⑥ドレミで歌いながら，ドレミファソラをフラフープの高さで表す。頭の上=ラ，を追加する。テンポはゆっくり（♩=64位）

## (2) 課題5-2

「鍵盤ボードで演奏する」

ねらい：鍵盤ボード使い，音程感，リズム感を育てる

活動内容

- ①電子式の「ドレミファ・マット」とフィゴ式の「ドレミマット」（ド～ラまで）を用意する
- ②「カエルの合唱」をドレミで歌う
- ③2つのグループに分け，各ボードの回りに円をつくるように集合
- ④非常に遅いテンポ（♩=65位）で，皆で歌いながら，一人ずつ歌の音程のボードを踏んでいく。  
慣れてきたら，少しテンポアップする。ただし最高で♩=80程度
- ⑤輪唱の要領で，フィゴ式の方を2小節後から始める。（歌いながら）

## 5. 受講生へのインタビュー

2019年度「保育内容B」受講者の6名について以下の要領でインタビューを実施した。

### 5-1. インタビューの対象者と方法

[インタビューの対象者]

文教大学心理教育課程3年次生で「保育内容B」のリトミックセッションに参加した学生6名（A～F）に依頼した。幼児心理教育コース（幼児コースと略）・児童心理教育コース（児童コー

スと略）の別，および各コースの課題は以下表4の通りである。

表4 インタビュー対象者の課題とコース

課題	幼児コース	児童コース
3	A	B
4	C	D
5	E	F

[期間] 2019年10月10日～17日

[インタビューの目的]

リトミック演習課題を改善するための情報収集

[インタビューの方法]

授業直後に行った質問紙調査の内容を基に，関連質問，および会話の流れの中でさらに踏み込んだ内容について問いかける。対象者には，事前にgoogleドライブに保存した授業のビデオを視聴してもらい，その後，個々に筆者の研究室でインタビューを行った。

### 5-2. インタビューの結果

インタビューの質問項目は表5の通りである。インタビューの内容は，表5の2点を中心に質問し，回答の状況により一層踏み込んだ話題を取り上げる。

表5 主なインタビュー内容

- |   |
|---|
| 1. リトミック演習課題について<br>①リトミック演習課題の文言は分かりやすいか？分かり難い点は？<br>②リトミック演習課題の内容について<br>2. リトミックのセッションについて<br>①実施方法<br>②リトミックの楽しさが得られた点<br>③子どもが楽しめると思われる点 |
|---|

前述の方法によりインタビューを実施した結果について，リトミック演習課題を改善する視点で以下に報告する。

### (1) リトミック演習課題3

以下，インタビュー結果の文章において，（）内は筆者が加筆した文言である。

### 学生A及びBのインタビュー結果

課題3-1と3-2について、両方とも課題の内容の通りに（セッションを）すすめることができたので、分かりやすかった。「ごんべさんのあかちゃん」の手遊びを知らなかったため、ネットで検索して対応した。

（BINGOの）カードを歌っている最中に裏返したため、皆を戸惑わせてしまった。児童コースの方は、事前に抜くアルファベットを（全体的に）示していた。ボディーパーカッションの指ならしは幼児にとって難しい。（両課題を）すべて含めると時間が足りない。3-1は頭を使って次第にレベルアップする課題のため、皆楽しそうだった。（歌は）ゆっくりのテンポから始めた方がよい。「ごんべさんのあかちゃん」のキー（音程）が高かった。

活動内容の①「こいぬのビンゴ」で（ピアノ伴奏付き）と記載があるが、②以降はピアノ伴奏をつけるのか迷った。またビデオを観て感じたが、③以降は、（歌を抜く文字の部分は）ピアノは無い方がよい。カードは（現場では先生一人なので）壁に貼った方がよい。（幼稚園実習の）責任実習で3-2をテーマとした活動を行った。その際、カードを裏返しにする度に子どもが嬉しそうな反応をみせた。3-2は年中の幼児には難しかった。授業のセッションでは時間制限があったため、文字を抜く順を一部省略して行った。指ならしはジャンプに変更工夫した。導入とまとめをグループで検討したが、どうするか難しかった。導入とまとめを考えるように指示した方がよい。

### （2）リトミック演習課題4

#### 学生C及びDのインタビュー結果

「ロンドン橋」の二分音符・四分音符・八分音符の意味・理屈が理解できない人がいた。一小節にいくつ叩くか分からない。（先生役になった）自分たちも叩き方を間違えていた。私たち（幼児コース）グループは二分音符で歩く課題は省略したが児童コースの方はやっていて、同じ課題でも（セッションの）やり方が違っていた。「サンタク

ロース」の輪唱は音楽的な響が良かった。練習の工程（段階）が細かすぎると厭きてしまうことがある。導入は、（これから行うリトミックが）楽しそうと思わせるために必要と思う。（筆者は時間が不足する場合は必要ないと指示した）「サンタクロース」はホワイトボードに音符のイラストを貼った方が子どもには分かりやすい。二分音符が象さん、四分音符に人間、八分音符にネズミさんのイラストを入れたのが理解しやすかった。「ロンドン橋」は時間が不足する場合は（各リズムで歩くことがめあてなので）手を叩く動作はいらぬ。歌の途中でカードを見せてリズムを変える動作は、遊び感覚では楽しいが、提示が難しい。

「膝打ち」「スタンプ」の意味が明確でない。例えば「膝打ち」は手で膝を叩くのか、（両膝を合わせて打つのか）分からない人がいた。「スタンプ」はボディーパーカッションの言葉であることの注意書きがほしい。カードには音符（のイラスト）を書くのか、「2分おんぶ」等の言葉を添えるのか迷った。学生を二重の円形に整列させる説明（⑤）に図がほしい。「～のリズムで手をたたきながら～」の文章で、例えば四分音符で（メトロノームのように）叩き続けるのか、楽譜の♪の拍のみ手をたたくのか迷った。「ゲート」の意味が分かり難いので図がほしい。カードの作成にあたっては、色を分け、ネズミ・人間・象のキャラクタを添えて分かりやすく工夫した。「暗いサンタクロース」は短調で、皆の気持ちをのせるのが難しい。活発な身体運動がほしい。曲の始めを「3ハイ」か、前奏を弾くかの指示があるとよい。課題4-1は暗いので楽器（打楽器）が入るとよい。（ピアノの）伴奏譜があった方がよい。（全体の）時間配分が難しい。「ロンドン橋」は必要な回数を繰り返す指示がほしい。曲の速度表示があると分かりやすい。

### （3）リトミック演習課題5

#### 学生E及びFのインタビュー結果

課題の説明文は分かりやすく、内容は指導しや

すい。音階を子どもに理解させるのが難しい。教材ポスターを作る際、視覚的に音の高さが分かるように工夫した。鍵盤ボードは、踏んですぐに発音しないものがあった。(タイミング良く)音をだすのにはコツが必要である。メロディーを完成させるには(充分な)練習時間が必要で、当日はきれいなメロディーにならず、満足感が得られなかった。ゆっくりとした(テンポ)で音を出すタイミングをつかませることが大切である。

リトミック演習課題の文言は分かりやすい。セッションでは、5-1と5-2のどちらか一方を行うものと考えていた。導入の手遊びを取り入れた方がよかった。5-1と5-2とも「カエルの合唱」でセッションを行った。鍵盤ボードは電子式の方がふいご式より音が聴き取り難かった。5-2では(実際の曲で)模範を示した方がよい。また、ホワイトボードに「カエルの合唱」の階名を記しておいたことは有効であった。5-2について、児童コースは一部の学生をセッションに参加させるようにした。参加している学生は楽しそうだったが観察している学生のことを考えると、(教室が狭くても)全員参加させた方がよかった。リトミックは音楽が得意でなくとも、身体を使って表現でき、楽しめた。

## 6. インタビュー結果の考察とまとめ

「保育内容B」を受講した6名の学生に、リトミック演習課題を改善する目的でインタビューを実施した。その結果を、リトミック演習課題と実際に行ったリトミックのセッションの2点に分けて考察する。

### 6-1. リトミック演習課題についての考察

リトミック演習課題の文言や指示方法に関して、分かりやすいと答えた学生は6名中3名であった。分かり難い文言や指示として、以下5点の指摘があった。これらの指摘について考察し、リトミック演習課題の改善に向けての方策を示す。

(1) 課題3-2 「活動内容の①のみに(ピアノ

伴奏付き)と記載があるが、②以降はピアノ伴奏をつけるのか迷った。」については、ピアノ伴奏をつけるかの判断を学生に任せることとし、(ピアノ伴奏付き)を削除する。

(2) 課題4-1 「『膝打ち』の『スタンプ』の意味が明確でない。」では、「膝打ち」は「両手で膝打ち」に、「スタンプ」を「足踏み」の表記に変更する。

(3) 課題4-2 「リズムを子どもたちに示すカードには、音符そのものを描くのか、『2分おんぷ』等の名称を書くのか迷った。」に関して、カードには音符を描くこととし、活動内容1行目の「2分音符」「4分音符」「8分音符」は( )に入れる。

(4) 同上課題の活動内容の⑤、「二重の円形に整列させる説明文には図があると分かりやすい。」については、授業中に説明することで理解を促す。

(5) 同上課題の②③④、「4分音符のリズムで手をたたきながら歌う」は、「4分音符でメトロノームのように叩き続けるのか、楽譜の」の拍のみ手をたたくのか迷った。」に関しては、準備段階で筆者が説明する。

### 6-2. リトミックのセッションについて

授業内で行ったリトミックのセッションに関して、リトミック演習課題を改善する上で注目すべき指摘を多数得られた。次回のセッションに向けて再検討すべき事項を含めて、各課題毎に述べる。

#### (1) 課題3のリトミック・セッション

3-2-Iについて、BINGOのカードを歌の途中で裏返すことが、タイミング的に難しいとの意見があった。現場における実際のセッションでは、カードはボードに貼りつけての使用が予測されるため、歌の途中で反転は行わないこととし授業中に説明する。

3-2-IIのボディーパーカッションでは指ならしができる学生が多かったとのことで、両手で肩を叩く、またはジャンプ等に変更する。



両課題とも、歌は遅いテンポで始め、徐々に早くすることを授業で説明したい。

3-1で「ごんべさんのあかちゃん」の楽譜は音域が高すぎるため、イ長調の楽譜に差し替える。

「こいぬのビンゴ」で、アルファベットの歌を抜く部分はピアノの音も無い方がよいとの意見があった。この課題のねらい「音のないビートを感じる」上では、ピアノ音も含めてすべての音を消すことは効果的である。ただ、ピアノ伴奏で、特定の拍を抜いて演奏することは、初心者には難しいため、学生の状況に応じて対応したい。

#### (2) 課題4のリトミック・セッション

4-1では、「サンタクロース」を短調で歌うため、動きが沈まないように「活発な身体運動がほしい」との意見があった。リトミック演習課題に示した「膝打ち」「頭に手をおく」「足踏み」の他に活動的な振りを学生に考案させたい。表現活動を学生自身に工夫させることは、表1に示した文科省が提示する「幼児と表現」の目標(2)-5)表現の基礎知識を「～幼児の表現活動に展開させることができる」を具現する授業内容である。

4-2において、練習が細かすぎると、厭きて集中力が続かないとの意見があった。子どもたちがリトミックの身体運動に慣れている場合には、②③④の手を叩く動作を省くなど柔軟に対応したい。

セッションにおいて、導入とまとめは、時間が不足する場合は省いてもよい、と指導している。今回のインタビューで、導入は「リトミックが楽しそうだと思わせるために必要」また「導入とまとめをグループで考えるように指示した方が、ロールプレイングとしての満足感とまとまりを得られる」との指摘があった。実際に子どもたちとのリトミック活動を想定して、簡潔な導入とまとめを考えるように指示したい。

#### (3) 課題5のリトミック・セッション

5-1では、セッションの導入として「手遊び

を取り入れた方がよかった」とのコメントがあった。5-1-IIで使う「むすんでひらいて」の手遊びを導入として行うことを助言したい。



図1 電子式鍵盤ボード

5-2は、鍵盤ボードについて「踏んですぐに発音しないものがあった」また「電子式の方が聴き取り難かった」との指摘があった。前者はふいご式の鍵盤ボードで、故障・不具合が考えられる。調整を要する点である。後者は、電子式鍵盤ボード(図1)の本体についているスピーカーの出力が弱いことが原因である。次回のセッションに向けて、アンプスピーカーを追加する方法で対応する。セッションに一部の学生が参加し、その他は観察していた点については、5-2の③の方法で、できる限り全員が参加する形態を指導したい。

#### 7. おわりに

本論では、リトミック演習課題を再検討し、改善することを目的に、受講生へのインタビューを行った。被験者には、事前にリトミック・セッションのビデオを視聴してもらい、筆者は授業直後に行った質問紙の回答を参照しながらインタビューを実施した。その結果、リトミック演習課題の文言や指示方法およびリトミックのセッションについて検討・改善するための貴重なデータが得られた。一例をあげれば、リトミック演習課題3-2「こいぬのビンゴ」のボディーパーカッションにおいて、被験者から「指ならし」は幼児には難しいとの意見があった。この点に関し、セッションのグループで学生たちが話し合い

「ジャンプ」に変更した。学生自身が自主的に協議の上、表現方法を工夫する振舞は、新カリキュラム「幼児と表現」の目標（2）-4「協働して表現することを通し、～より豊かな表現につなげていくことができる」を具体化する行動と言える。リトミック演習課題の次の改訂では、両手で肩を叩くまたはジャンプ等に変更する。

今回は、課題3, 4, 5について検証したが、次の研究では課題6～9の見直しを行い、リトミック演習課題の改善をすすめたい。

### 謝辞

インタビューに協力いただいた学生に、心より感謝する。

### 引用文献

- 秋山治子. 2012. 「今、都内の幼稚園・保育園（所）でどのような歌が歌われているか：アンケートの集計と考察」. 白梅学園大学研究年報 17. p.40～46
- 小倉隆一郎. 2018. 「リトミック演習課題の作成と試用-保育内容「表現」の授業改善に向けて-」. 文教大学教育学部紀要52号. p.97～105
- 厚生労働省. 2017. 『保育所保育指針〈平成29年告示〉』. フレーベル館. p.20～21
- 文教大学. 2019. 教育学部ホームページ. 2019年10月9日  
<https://www.bunkyo.ac.jp/faculty/education/>
- 室町さやか. 2017. 「わらべうたによる幼少接続についての一考察：小学校学習指導要領と幼稚園教育要領の比較から」. 山梨学院短期大学研究紀要. 第37号. p.131～139
- 文部科学省. 2017. 『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』. フレーベル館. p.29～30
- 文部科学省1. 領域及び保育内容の指導法に関する科目（2. 「領域に関する専門的事項」のモデルカリキュラム）. 2019年10月3日  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/05/](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/)

19/1385791\_7.pdf

Lyn Richards・Janice M. Morse 小林奈美監訳.  
2008. 『はじめて学ぶ質的研究』. 医歯薬出版(株)

### 参考文献

- リトミック演習課題の作成に使用した参考書
- 板野 平. 2001. 『ダルクローズ教育法によるリトミックコーナー』. チャイルド本社
- 神原雅之. 2006. 『リズム&ゲームにどっぷりリトミック77選』. 明治図書
- 石丸由理. 2011. 『リトミック百科』. ひかりのくに